とうきょう　すくわくプログラム活動報告書

園名	光明第七こども園
活動日時	2026.10.1
クラス（年齢）	幼児クラス（3，4，5歳児）
年間テーマ	自然

1．活動テーマ

≪テーマ≫

みんなのもりをなおそう！～アイデア募集編～

≪テーマの設定理由≫

子どもたちが日頃から親しんでいる「みんなのもり」に設置している手づくりの看板が、長年の使用により劣化し、壊れていることに気が付いた。子どもたちと一緒に看板の状態を確認し、修繕することにした。木などの自然素材は、雨や風、日差しなどの影響を受けながら少しずつ変化していく。今回の活動を通して、自然素材の特徴や変化に気付き、身近な自然に目を向けるとともに、自分たちがつくり上げてきた「みんなのもり」を大切にしようとする気持ちを育みたいと考えた。

2．活動スケジュール

朝の集まり、帰りの集まりで内容を伝え、いつでも描けるようスペースを設置

3．探求活動の実践

≪活動の内容≫（活動のために準備した素材や道具、環境の設定）

紙、色鉛筆、付箋、タブレット

≪活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り≫

「みんなのもり」を訪れた際に発見した、朽ち果てた看板や倒れている木々。子どもたちは森の変化に気づき、「看板を直したい」「もっと楽しい森にしたい」という思いを持つようになった。

話し合いを通して、園長先生に看板の修繕をお願いすることになったが、これをきっかけに、看板を直すだけでなく、みんなのもりをもっと楽しく、みんなが親しめる場所にしていくことを考えた。

そこで、子どもたちだけでなく、園の友だちみんなからアイデアを募ることにした。

「どんな森になったら楽しいかな？」
「みんなが遊べる場所がいいね。」
「木の実を使って遊びたいな。」

子どもたちの自由な発想を大切にしながら、「みんなのもりが楽しくなるようなアイデアぼしゅう！」として、みんなのもりをどのような場所にしたいか、一人ひとりが考え、思いを伝えられる機会を設けることにした。









4．振り返り

≪振り返りにより得た保育者の気づき≫

今回の活動では、森の変化に気づいたことが、修繕への願いや環境づくりへの意欲へとつながっていった。
さらに、自分たちだけで考えるのではなく、園の友だちみんなにアイデアを募ることで、より多くの考えに触れ、活動を広げていくきっかけとなった。
子どもたちが「こうしたい」「こんな場所があったらいいな」と自由に発想することは、自然への興味や関心を深めるだけでなく、自分たちの生活環境を主体的につくっていく経験にもつながる。
保育者としても、子どもたちの発想を大人の考えだけで方向づけるのではなく、一人ひとりの思いを受け止め、実現に向けて一緒に考えていくことの大切さを感じた。
今後は、集まったアイデアを子どもたちと共有し、どのような工夫ができるかを話し合っていく。自然の特徴や森にある木の実、落ち葉、木々などを生かしながら、子どもたちの発想を実際の環境づくりにつなげていきたい。
また、実現できそうなアイデアについては、安全面にも十分配慮しながら、子どもたちや保育者が協力して取り組んでいく。
自分たちの気づきやアイデアが形になる喜びを感じるとともに、みんなのもりを大切にし、自然と継続して関わる気持ちを育んでいきたい。